

第 63 回会合の議論を踏まえた
一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会への追加質問及び回答

輻輳対策としてセッション数を制限する E 型増設でなく、F 型の網終端装置しか解決する方法はないとの主張です。佐藤構成員の質問とかぶりますが、以下お聞きします。

(1) 主張されておられることが起こっていたら、E 型増設の意味はないように思えます。これは NTT 東西が認めておられることですか？

(辻座長)

(答)

- NTT 東西はセッションの振り分け装置において、C 型 (1Gbps 増設基準 C20 型で 1600 セッション C 型で 6300 セッション) E 型 (10Gbps 増設基準 16000 セッション) の区別なく均等にセッションを割り当てていることは仕様通りとして認識されています。C 型 E 型の能力に応じた振り分けを行うためには、仕様を変更して開発する必要があるとのことですので、結果として現仕様では E 型はその能力を十分いかせず、振り分けにおいては C 型と同様に扱われていることとなります。
- 一方、C 型に対するセッションの偏りに対する対策として
 - ① C 型装置を全て撤去した上で E 型のみを増設する
 - ② セッション数の偏り確認→セッションリミット数変更依頼を頻繁に繰り返す
 - ③ E 型を C 型とは別のサービスの收容にする (最大 10G のフレッツ光クロス専用とする)
 などがあります。このように運用により E 型の性能を活かす方法がありますが、それぞれ下記の通りの課題があります。
 - ① C 型の撤去に伴う利用中止費が大きく嵩む上に、C 型から E 型に移行中に同量の IP アドレスを必要とするために移行に時間がかかります。
 - ② セッションリミットの変更には概ね 1 ヶ月程度の期間と変更工事費が必要であり、トラヒックの伸びに合わせて柔軟にセッションの偏りを変更していくのは現実的に困難です。
 - ③ 別のプレミアムサービスのような新サービスとして提供し、E 型専用にすることはできませんが、既存で大量に使っているユーザ等特定の者だけを E 型終端装置に收容することはできません。そのため、輻輳対策やサービス提供の観点から現実的には効果がありません。(ユーザは移行してくれません。)
- よって、必ずしも E 型増設の意味はないとは言えないですが、ISP として

はコスト面や運用面および効果の低さから容易に取れるトラフィック増対策ではありません。

(2) E型増設では輻輳が解決していないと感じられている ISP はどのくらいおられますか？ データはありますか？

(辻座長)

(答)

- 統計を取ったわけではありませんが、小規模な地域事業者に対する特例の恩恵を受けられない PPPoE を主力とする中規模以上の ISP 数社と、PPPoE によるローミングサービスを利用している地域 ISP (推定で数十から 100 程度) がこの問題に直面していると思われます。
- なお、事業者によっては E 型増設は効果が無いと考えるケースがあるかも知れませんが増設して必ずしも問題が解決していないと考えているわけではありません。